

【小学校5～6年生】褒める言葉を貯金してみませんか？

「褒め方が分かりません。」と相談を受けることが少なくありません。

「褒める」ことは、褒める側のスキルと受けとる側のタイプによる「傾向と対策」が必要とされます。まずは「この子は褒められると伸びる」とか、「この子は大げさに褒めてもダメ」など、褒められる側の子供のタイプを知ることが大事です。少しタイプ別に考えてみましょう。

◇他人のことを気遣うタイプの子供は、とにかく褒めてほしいのです。注目されていることが大事なので、こまめに褒めると良いようです。例えば「助かったわ～」「嬉しいわ～」「あなたがいてくれてよかったわ～」、また、時には、母親から父親にお願いして、父親から褒められることも効果があります。

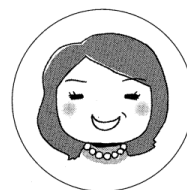
◇事実が大事なタイプの子供は、本当にあった事実をもとにクールに承認するという感じで褒めるとよいでしょう。男子にはこのタイプがは多く、褒める親にしてみたら、褒めても反応がないので手応えを感じにくいのですが、親の気持ちは必ず伝わります。承認する事実があれば必ず押さえて、シンプルに伝えることが必要です。このタイプは、自分が設定した目標が達成できた時に褒められることを大切にしています。単に意味なく褒められることは理解できないようです。達成できた時に、「見ていたよ」「やったね！」という声かけが欲しいのです。友達や先生など周囲からの情報収集と日頃の観察によって、褒めるタイミングを見計らいましょう。その時にも、普段接する時間の短い父親からの評価されるとなおさら効果的です。

褒めることが苦手だという方もいます。そんな時には、両親で褒める役を交代するなど役割分担をすることも良いでしょう、また、「お父さんがこう言っていたわよ」などと「通訳」することも役立ちます。コツコツと「褒める」。まるで言葉を貯金するような感じをお願いします。これが、「人を信じる」という自立への土台作りになるからです。毎日コツコツ「褒め言葉」を貯金してみませんか？

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐにも実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



森田さん



森さん

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。